カリキュラム・マップに基づいた教育課程の検証結果 （今後の対応）

(別紙３)

No.	学科	検証時期	該当科目	課題・検討内容	調整が必要な部署	スケジュール	対応結果（経過）	対応
1	歯科	R5.前期	・薬理学（それと連動して歯科薬理学は、薬理学を履修後に学ぶべきである）	薬理学は、基本的な身体の仕組みと疾患時の身体の変化の知識を事前に学ぶ必要がある。1年前期の開講は早すぎるのではないか。		新しいカリキュラムの検証と並行して、R6年度の学科会議にて継続して検討	現行の3年制教育では難しいと考えられるが、調整を検討中。	●
2	社福専攻	R5.前期	ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習の実習期間の延長に伴い、事前事後の指導と実習との連動や各実習の適切な期間設定が難しくなった。	実習施設や機関との調整が必要	新年度に向けた実習指導体制を話し合う1月の合同実習委員会にて話し合いを始める。		●
3	社福専攻	R5.前期	社会保障論 地域福祉と包括的支援体制	科目の開講時期及び期間の適切性について課題がある。	教務委員会において審議が必要	社会福祉専攻の教務委員と来年度、継続的な話し合いを進める。		●
4	一般教育	R6.後期	・データサイエンス入門 ・情報の活用 ・情報・メディアの法と倫理	政府の戦略・政策を踏まえて、具体的に数理・データサイエンス・AIの教育内容をどのように本学における教育課程に位置づけていくか。		R7年度の学科会議にて検討していく		
5	一般教育	R6.後期	・人間の心理 ・生活と法 ・言語と表現	履修者数の確保と、将来的な非常勤講師への委嘱のしやすさを確保するため、学科・専攻により開講時期が異なる科目（「人間の心理」「生活と法」「言語と表現」）の開講時期を検討する。	・担当教員（非常勤講師）、各学科との調整が必要 ・教務委員会等での検討や調整が必要	R7年度以降、学科会議で検討及び担当教員や各学科と調整を行い、調整できた科目については教授会に諮る。		
6	介護専攻	R6. 後期	人間関係と援助技術	・医療福祉システム論と毎年後期の前半8回・後半8回の順番を入れ替えながら実施しているが、前半8回の際に多くの学科の学生が実習に行き、かつ学科毎に実習の時期が異なるため補講などで複雑な対応が求められる。	・全学科での調整が必要	介護福祉専攻の分については、令和7年度介護実習運営委員会で検討する。		
7	介護専攻	R6. 後期	障害とコミュニケーション技法	・科目の特性からコミュニケーションⅠとの開講時期や生活支援技術への位置づけについて調整が求められる。	—	令和7年度介護実習教育検討会で検討する。		
8	介護専攻	R6. 後期	介護レクリエーションⅢ	・受講者数が少なく学習効果が低いため、事前に受講者数を調整する等の対応が求められる。	—	令和7年度介護実習教育検討会で検討する。		

〇対応完了　△一部対応済　●対応中　×対応不可能　－未対応　空欄は新規追加分